

事業実施概要

事業名称	東広島市南部、北部における多文化共生社会推進を目指した日本語教育事業
地域課題	①教室に来ることができない外国人市民の存在 ②さまざまなタイプとニーズ ③外国籍市民は市民サービスなどの情報を知らない。④地域の日本語母語話者は、外国人市民を知らない。外国人市民に出会わない。⑤外国人市民からの情報を受け取ることが難しい。
事業の目的	日本語学習をしたくてもできない外国人市民に対して多文化共生社会推進の目的に沿い、地域の事業所等と連携し、地域住民との交流を図りつつ行う日本語学習の場を提供する。 日本語教室は多文化共生社会推進に資するものとなるよう、ボランティア講習会を開き、参加ボランティアの意識の統一を図る。 漢字圏、非漢字圏を問わず生活に必要な漢字を習得するための教材を作成する。
事業の概要	日本語教育の実施
	<p>名称：にほんごわいわい福富・にほんごわいわい安芸津 目的：学習者の生活の質を上げるために、①安全に生活するための日本語を学習する。②地域や職場での人間関係を円滑にするための日本語を学習する。③地域活動などの情報を得る。 対象：東広島市安芸津町、福富町および周辺地区在住の外国籍住民 人数：わいわい安芸津 19人、わいわい福富 9人 （主な出身・国籍：中国、インドネシア、ベトナム、フィリピン、ペルー） 時間：福富 週1回×2時間（全30回） 安芸津 週1回×2時間（全34回） 内容：形態は交流型。地域住民ボランティアと学習者が日本語で交流する活動を行った。コーディネーターが、地域の行事や生活情報など学習者の生活が便利になる話題、日本社会を理解するための知識などを中心に教材を準備し、ボランティアと学習者とのマッチングや、また、ボランティアが活動しやすいように活用方法などを説明したり助言したりした。</p>
	日本語教育を行う人材の養成・研修の実施
	<p>名称：多文化共生社会推進を目指した日本語ボランティア養成講座 目的：日本語ボランティアは、①多文化共生社会とはどんな社会かを知る。②生活の質を上げるための日本語学習とは何かを知る。③日本語ボランティアの役割を踏まえた上で、日本語支援の方法を知る。 対象：東広島市内に居住もしくは就業する人。特に安芸津地区、福富地区に居住、就業する人で、外国人市民と交流したい人。また、日本の多文化共生社会の推進について興味のある人。 時間：34時間（全12回） 人数：145人（出身・国籍：日本、中国、台湾、ベトナム、マレーシア、フィリピン） 内容：初めにこれまでの日本社会の多文化共生推進の歴史および多文化共生社会を目指すとはどんなことなのかを概観する。次に多文化社会を目指した活動について知るための講座を持った。多文化共生社会推進のための活動の実際を知り、これらを踏まえて、日本語教育に必要な知識（概論、音声）を学んだ。さらに日本語支援の方法について、実践も取り入れつつ学んだ。</p>
日本語教育のための学習教材の作成	
<p>名称：わたしがしりたい せいかつ漢字 目的：学習者が知りたい漢字の読み方、意味を知り、生活で使用できる漢字を増やすための教材を作成。 対象：漢字学習を必要としている、東広島市民および東広島で就業、学習している人 構成：テーマは①時間②交通③買い物④病気⑤学校⑥住まい⑦災害に分けそれぞれのテーマごとに3から6の漢字を設定し、導入部として「基礎的な知識をはじめに紹介する「はじめの漢字」も含め、全部で40単元とした。できる限り絵や写真など意味の推測を促すものを多用し例文も示した。また、練習問題も挿入した。英語、中国語、ベトナム語、インドネシア語、ポルトガル語、スペイン語の語彙表を作成した。 使い方：当事業団が行う日本語教室に漢字クラスを設け、そこで教師指導の下に使用する。</p>	
成果と課題	<p>成果：日本語教育では、ボランティアが街で学習者を見かけたときに声をかけるなど、これまで外国籍市民との交流が少なかった地域で住民との関係づくりの基礎ができつつある。人材養成研修では、ボランティアの役割をある程度伝えることができた。また教材作成では、実際に教室活動で使える漢字を作成できたことにより、日本語教室のバラエティが広がった。 課題：外国籍市民が地域社会に流れるさまざまな情報を得る能力の養成ができることを目指し、3種類の事業を行った。しかし、学習者の発信力養成にはつながっていない。日本社会での外国籍市民の発信力の養成を目指した事業が必要である。</p>
発表者から一言	<p>今発表で、昨年度の事業を振り返り事業内容を問い直すことができました。またこの作業が、今行っている事業を少し客観的に見ることにもつながりました。日々の作業に追われて、今やっている事の意義を考えるとなく過ごしていましたが、ここでちょっと立ち止まり、初めに何を考えていたのか、もう一度問うてみる事ができたことは収穫です。このような機会を与えて頂き、ありがとうございました。</p>